

「こうかん・くうこう」だより nijima・shikinejima 新島・式根島

発行平成 16 年 9 月

羽伏漁港のケーソン据付完了！

羽伏漁港の災害復旧工事が 3 年目を迎えています。既設ケーソン（幅 32m、長さ 20m、高さ 11.5m、コンクリート製の箱）3 函が被災し壊れてしまいましたが、今回の災害復旧工事では、ケーソンを大型化し 2 函製作、据付としたことで工事費の縮減や工期の短縮を図っています。

ケーソン据付前



ケーソン据付後



ケーソンは 5 月、6 月に据付を完了し、今後は背後地の埋め立てやパラペット（胸壁）の復旧等、平成 14 年 10 月の台風 21 号で被災する前の状態に戻します。今年は台風が多く、波やうねりのために工事が思うように進まないこともあります。予定の 17 年 3 月の完了を目ざしています。

新島港の夏期交通対策へのご協力ありがとうございました！

7 月 17 日から始まった新島港の夏期交通対策が 8 月 31 日をもって終了しました。

皆様のご理解とご協力に感謝致します。この交通対策は 7 月上旬に港利用関係各社が、白線引きや、歩行者通路の安全対策を実施したものです。東海汽船新島代理店、伊豆七島海運新島代理店、新島物産（株）、新島建材（有）、前抗建設（株）、前田建設（株）の皆様、ボランティアご苦労様でした。



式根島港のおはなし！

式根島はかつて無人島でしたが、古くから新島島民にとって食料や生活物資の採集地として生活に深くかかわっており、「くら」と呼ばれていました。記録によると、式根島に人が住み始めたのはおよそ120年ほど前のことです。海岸の入り江を活かした漁業の町として栄えてきましたが、かつての島の玄関は現在の式根島港でした。

式根島の繁栄とともに、昭和39年国の港湾指定を受けて、昭和41年式根島港の本格的な整備が始まりました。その5年後には、新島と式根島を結ぶ連絡船が、1日1往復の「日航海」（ひこうかい）に代わり1日3往復の村営船「にしき丸」となり、新島とのアクセスが向上しました。

当時、伊豆七島には既に東京からの大型船も就航していましたが、式根島には直接接岸できないため、島を目のあたりにしながら2時間余りかけて「はしけ」に乗り換えての乗降でした。

工事着手から13年、念願の岸壁が完成し、昭和54年7月7日「さるびあ丸」が式根島港に接岸、式根島と東京間は大型船で結ばれることとなりました。

式根島港は、島の南東、足付（あしつき）という場所に位置します。

この足付は歌人と謝野晶子が歌に残した景勝地で、映画「男はつらいよ」のロケ地にもなるなど、式根島を代表する観光スポットです。また、近くには海中からわき上がる天然の足付温泉があり、年間を通して多くの人々を惹きつけています。

（参考文献：新島村史、式根島100年史）



現在の式根島港（平成16年7月）
奥に見えるのは新島



「はしけ」による乗降（昭和40年代と思われる。）

（資料提供：東海汽船株式会社式根島代理店）